





呂布を捕らえた男たちが命令する

「ほら もっと広げて見せる お前の大切な男は俺たちしだいという事を忘れるなよ」

「へへ。。。こくなっちゃ 爆乳戦士も形無しだな」

「聞こえないのか？ もっと足を広げるんだよ！」

「くっ。。。」

人質を取られた呂布が仕方なく男たちに応じる

キキ

キキ

くっ。。。



「じゃあ次はコレをしゃぶってもらおうか！」

男たちがズイと突き出す物をしゃぶりはじめる呂布

「しっかりしゃぶれよ」

ビクビク

ニクニク  
ニクニク

ニクニク

「うっ……」

「中々上手いじゃねえかよ」

「そりゃそうさ 今まで散々あの男のをしゃぶってきたんだからな」



男の肉棒が容赦なく呂布の中に入ってくる

「さすが 特A闘士様の中は違うぜ!」

「そ そんな奥まで・・・」

「ああ？ 何言ってるやがる」

「何 今さら女ぶっていやがんだ？」





「いいのか？お前一人の問題だと思っっているのか？」

「『ごでお前が言う事を聞かなきゃ奴の命はないぜ？』

「くっ。。。」

「そうやって強がっていられるのも今のうちだ」

「おらとつとと広げてみせるんだよ！」

「そうそう そうやっておとなしく言う事をききやいいんだよ」







「おら 次はどうするのかわかってんだろ？」

無抵抗の巨蒙に肉棒を突き立てる男たち

「うっ あむっ。。。」

言われるがままに男たちに奉仕する巨蒙

「いいか？出すぞ。。。飲み込めよ？」

グッ

グッ



男たちにいいように弄ばれる巨蒙

「もっと腰を振るんだよ 闘士様がこんなんでくばってんじやねえぞ」

「おらー！こっちもさぼってんじやねえぞー！」

ハァ

ハァ

クワッ

クワッ

クワッ





「ふん、自分の君主を人質に取られては  
特Aの戦士も形無しだな」

コキ

コキ

コキ

コキ

「へへ きれいな色をしているじゃねえかよ」

「今まで使ったことないじゃねえの？」

「へへ 今日俺たちが散々使ってやるけどな」





「もっと丁寧にしゃぶらねえと劉備の首が飛ぶぞ ああ？」

「そのデカイ乳も何のためにつけてんだ？ もっと押し付けるんだよ！」

ハッ

グッ  
グッ  
グッ  
グッ

ハッ

アッ  
アッ  
アッ

「こんなエロイ体しているくせに何もわからないんじゃないやしょうねえな」

「へへ その体に今から俺たちが教えてやるんじゃないやねえかよ」



「おおっ 流石は特A級戦士 こっちも特A級だぜ」

「回の方も慣れてきたようだな こっちのヨツを掴むのも早いようだな」

クキキ

クキキ

クキキ

クキキ

クキキ

クキキ

クキキ





「わかってんだろ？ あんたがおとなしくしないと大事な君主様がどうなるかよう？」

「そうそう そうやって下手に出てくれりゃ

こっちも余計なまねをしなくてすむってもんさ」

ク  
ク  
ク  
ク  
ク

ク  
ク  
ク

ク  
ク  
ク

「もう残っているのはあんなだけなんだ 観念しな」

「さあ 自分で広げてみるよ」

ク  
ク  
ク

「おほっ 特A闘士様の御開帳だぜ」



「流石に聞き訳がいいな」

「くうっ！この舌使い……たまんねえな……」

ニギ

ニギ

ニギ

ア  
ニギ  
ニギ

ア  
ニギ  
ニギ

ニギ  
ニギ  
ニギ  
ニギ





「うっ 流石人気ナンバー1のエロ闘士だな たまんねえ」

「まだまだ相手をしてもらおう奴あ いくらでもいるんだぜ」

「あんたの力が尽きても俺たちの相手をしてもらうぜ」

「ふふ あの関羽様の爆乳を揉みしだいて突っ込めると聞いたたら

学校中の男どもがやってくるぜ」

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ